





れ	を	真	実	と	伝	え	る	見	出	し	が	見	つ	か	り	ま	し	た	。
ま	た	、	新	聞	離	れ	は	日	本	だ	け	の	問	題	は	あ	り	ま	
せ	ん	。	「	ア	メ	リ	カ	新	聞	事	情		縮	む	部	数	、	進	む
ネ	ッ	ト	融	合		新	た	な	収	益	へ	改	革	手	探	り	」		
（	2005	年	10	月	8	日		読	売	新	聞	）	、	「	仏	」	ル	・	
モ	ン	ド	「	紙	が	ソ	フ	ト	路	線	へ		深	刻	な	新	聞	離	れ
反	映		生	活	密	着	の	記	事	を	充	実	」	（	1995	年	1	月	
「	日		読	売	新	聞	）	、	「	若	者	離	れ	」	克	服	に	紙	
面	改	革		デ	ン	マ	ー	ク	新	聞	界	一	斉	に	」	（	1992	年	
6	月	13	日		読	売	新	聞	）	、	「	世	界	の	論	調	」		
「	報	道	よ	り	主	張	」	が	命	取	り		フ	ラ	ン	ス	人	の	新
聞	離	れ	」	（	1988	年	2	月	6	日		読	売	新	聞	）	と	、	
海	外	で	も	、	大	き	な	問	題	に	な	っ	て	い	ま	す	。		
	集	め	た	資	料	を	読	ん	で	み	る	と	、	新	聞	を	読	ま	な
く	な	っ	た	の	は	、	「	イ	ン	タ	ー	ネ	ッ	ト	の	浸	透	で	、
ニ	ュ	ー	ス	へ	の	接	し	方	が	変	わ	り	」	（	2008	年	8	月	
27	日		読	売	新	聞	）	、	「	『	情	報	を	教	え	る	』	と	い
う	意	識	の	強	い	新	聞	に	対	し	て	、	参	加	型	の	ネ	ッ	ト
に	多	く	の	人	が	魅	力	を	感	じ	て	い	る	こ	と	や	、	ネ	ッ
ト	の	情	報	と	報	道	機	関	の	流	す	情	報	と	の	間	で	の	重

要件が利用者にあいまいになりつつある」  
（2006年12月14日 読売新聞）、複数の記事  
にインターネットが原因と書いてあります。  
しかし、わたしは思うのです、インターネ  
ットって、そんな事実を伝えているのかと。  
「必要な情報はインターネットから入手でき  
る」 「新聞を読まなくなったのではなく、ネ  
ットがあれば読む必要がない」 「新聞に書か  
れていることは、情報操作されているから真  
実ではない」という意見を聞いたことがあります。  
しかし、これらはあきらかに詭弁です。  
確かにインターネットには、マスコミが報  
道できないような情報が存在することも事実  
です。しかし、それらの情報は知識のある人  
のみが、正誤の判断をできるのです。悲しい  
かな、わたしたちにはそれを判断するだけの  
知識をまだ持っていないかもしれません。未熟なわたした  
ちがネットのみに頼ってしまったら、とんで  
もない間違いを起こしてしまうでしょう。  
また、インターネットは匿名の社会です。

ブログ、掲示板の書き込みが、どれだけ責任を持って書かれているか、考えたことはありますか？  
どの誰が書いたものか分からないもの、内容の真偽も定かではないものあふれかえっています。このような内容の真偽が定かでないものをいくら読んでも、知識として蓄えることはできません。  
それに対して新聞はどうでしょう。記事には記者の署名があります。これは言論に対して、記者、そして新聞社の責任の表れです。  
加えて何人もの人たちが原稿に誤りはないか、人を傷つける表現はないかをきちんと、チェックをされて、ようやく輪転機は回ります。  
そのように信頼できるものだからこそ、先生方が新聞を読むようにと推奨されるのです。  
新聞を読むことで、わたしたちは多くの知識を得ています。知識になるのも、その内容が正しいからです。正しいことが書かれています、その安心感は何ものにも変えられません。ブログや掲示板には悪意のある書き込みが

。

、

たくさんあります。わたしたちは勉強やスポーツを通じて、知識だけではなく、心も育まなければならぬ時期です。その大切なときに、悪意に満ちた書き込みを見て、なんの役に立つのでしょうか？

一方、新聞はどうでしょうか。「新聞で学ぶ力育成 立命館大、表現力や問題発見力磨く」(2008年9月27日 読売新聞)、「新聞からの引用学ぶ 秋大付属小、児童が意見述べる助けに」(2007年12月8日 読売新聞)との見出しからも分かるように、わたしたちの知識を大きく飛躍させてくれるのです。こんな素晴らしい媒体が身近にあるのに読まないなんて、もったいないことです。

残念ながら新聞離れは現実です。しかし、みんなが読まないから自分も読まなくていい、ということにはなりません。

新聞を読んで自分自身の知識を育む、この積み重ねこそが、わたしたちが社会に出るときに役に立つものと、確信しています。